つつじヶ丘だより

函館西高同窓会関西支部

第二十九号
令和元年度号（10月10日発行）

ご挨拶

つつじヶ丘同窓会関西支部
会長　中村　浩
（西高9回生）

皆様、いかがお過ごしでしょうか。本年度、令和元年度は、同窓会関西支部の総会が開催される年にあたります。一昨年11月に開催した総会から2年経過しました。予想どおり出席者が固定化し、なんとかこれを打開したく思っております。

昨年の10月初めに、わが函館西高と函館稜北高校との統廃合が正式に決まり、新たな函館西高等学校がこの4月から発足しました。函館西高等学校の名称が残って安堵したとの声が多く聞かれますが、この一言で片付けてよい問題ではありません。制度的には旧制函館女子高等学校から函館西高等学校に変革したのとほぼ同じような重みを持つものです。新たな北海道函館西高等学校　全日制普通科単位制の今後の発展を見守りたいと思います。

会の活動としては2年毎の総会・懇親会と幹事会、不定期の親睦会を開催しています。その他の活動としては、この「つつじヶ丘だより」の発行が挙げられます。今後、会員数の減少は避けられず、いつまで本誌を発行出来るかわかりません。そこで、同窓会関西支部の足跡を残すためにも、昨年より次の様な企画をいたしました。

『「つつじヶ丘同窓会」関西支部（関西つつじヶ丘同窓会）あるいはその前進の同窓会に入会した頃』と題して、毎号3名から4名の会員に順次原稿を依頼して掲載するものです。本号では、左記の記事のように3名の方にお願いいたしました。昨年度につづき本年度も順次原稿執筆をお願いいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

つつじヶ丘同窓会
関西支部発行
連絡先：06-6852-8274
E-mail address:
hiro@osaka.zaq.jp
URL:http://td.kansai.sakura.ne.jp

特別企画

『「つつじヶ丘同窓会」関西支部（関西つつじヶ丘同窓会）あるいはその前進の同窓会に入会した頃』　その2

原稿執筆にあたり、次の様な要領で執筆するようにお願いいたしました。

① 「関西つつじヶ丘同窓会」の総会に初めて出席した時期はいつ頃ですか。具体的にお書き下さい。（昭和・・年、昭和・・年頃、など。西暦でもかまいません）

② そのきっかけは、どんなことでしたか。

③ 会長は、どなたでしたか。

④ その頃の思い出をお書き下さい。（この会に出席した時の感想、思い出話など、何でも結構です）

右記の質問に沿って、箇条書きにしたもの、あるいは、全体をまとめた文章でも結構です。文字数は問いません。

本号では、石原貞夫（西高3回生）、佐藤正征（西高7回生）、岡本忠篤（西高8回生）の三名の方々の原稿を掲載いたしました。

函館西高校同窓会関西支部との出会い

平成　26年度版原稿の改編再録

石原　貞夫（西高3回生）

私が西高を卒業し、函館を離れてから66年経過しましたが、その間色々な経験をして来ました。最初は仙台の大学に入学し、卒業後は、就職した会社の勤務地が三重県にあった為、此処が第二の故郷になりました。当時は、西高同窓会の事等は考える事もありませんでした。時を前後して弟の正が大阪の広告代理店に勤務する事になり、色々連絡を取り合っている内に、西高OB会の話が出て、一度大阪に出て来いと言う事になり、支部の総会に出席したのがこの会との繋がりとなりました。総会には旧高女の先輩が殆どで、西高卒業生はほんの数名で、隅の方に小さくなっていました。その後、西高卒業生も少しずつ増加し、逆に旧高女卒の方が少なくなってきました。当時支部長をされていた寺村さんと言う方が積極的に会の纏めをして下さいました。時には京都で総会をしたこともありました。また、西高の校長先生や東京支部長さんを招待し、総会を開いたこともありました。その後弟の正が支部長になり、会の運営を見ておりました。当時のメンバーは、3回生、5回生が主体になり、後輩の情報を集めて会員の勧誘をしていました。しかし、残念ながら西高の卒業生で関西に在住する人は少なく、ましてや旧高女の方は望むべくもなく、員数は減少せざるを得なくなりつつあります。

ところで余談になりますが、先日書類の整理をしておりましたら函館西高等学校同窓会関西支部「会員名簿」（平成4年度）なるものが出てきました。A5

版の大きさで、12ページに、旧高女の方が１３０名、西高卒が50名程の名前が載っていました。文中には、函館西校同窓会関西支部「申し会わせ」として7項目の事項が書いてあり、この会は箱根山以西に在住する同窓生の親睦を計る事を目的にする、毎年一回総会を開く。会員は年間壱千円の維持費を納める等綴られていました。今考えると夢のような話になりますが、こんな時代もあったんだなあとつくづく感じた次第です。

時代は移り、本年度から函館西高と函館稜北高校の統廃合による新たな北海道函館西高等学校が発足しました。

これからの同窓会がどのように変遷行くのか楽しみでもあり、不安でもあります。

これから少子高齢化の時代に入り、後継者を集める事が段々難しくなる時代になります。西高同窓会関西支部も今後の運営について結論を出す時期が来たような気がしますが、何処の同窓会も運営が難しくなる時代になっています。知恵を絞ってぜひ歴史ある西高同窓会を継続して運営されますことを祈念しております。

最後になりますが、この会の運営にご尽力下さった皆様の御努力に対し心から御礼を申し上げ、函館西高の益々の発展を祈念しております。

北海道へ帰る夢はかなえられなかったが
京都で高校教師になれたしあわせ

佐藤正征（西高7回生）

函館西高の3年間は徒手体操に明け暮れ、１９５５年新潟での全国高校体操選手権大会に、翌年には第11回国民体育大会（兵庫県）に参加した。また、冬はスキーが最高の楽しみであり、松村俊三郎先生にスキーの検定を受けるよう勧められたことがある。このように、勉強とは無縁の高校生活であったが、3年生の秋になって一転大学進学を志し、京都にある立命館大学へ進み、日本史学を専攻した。

４回生の夏、北海道の教員採用試験を受け、一次（学科）で大幅にしぼられ、二次（面接）があり、合格。北海道教育委員会より『採用候補者名簿』に登載との通知を受けた（これは1年以内に採用されなければ無効になる不合理なもの）が採用されず。教授の勧めで大学院へ進み、大学院2年の夏、また北海道の採用試験を受け、合格。ところが道教委からの採用呼び出しが無く、函館に帰っても仕事がなければ・・・・と思案していた3月末、京都市教育委員会から呼び出しがあり、１９６４年（昭和39年）京都市立高等学校教諭に採用された。

学校では教科指導以外にクラス担任か、他の公務分掌があり、私は同和教育や生徒指導を担当することが多く、教科指導以上に大きな負担であった。京都市立高校勤務は35年、60歳で定年退職。私学の誘いがあって女子高校の非常勤講師を6年勤めた。去来することをあげると、琵琶湖畔に住んでいたことからボート部の顧問となり、四国での全国高校漕艇選手権大会に参加したこと。また、学習参考書の執筆を求められ、分担執筆した参考書が今でも出版されている。また、授業用のプリント作りも毎晩深夜に及ぶ大変な仕事で、謄写印刷（ロウ原紙をガリ版の上で鉄筆をもってガリガリと文字をきざみ、謄写版か輪転機で印刷する）からワープロへの移行が進んだ時期であったが、私はガリ切りが楽しみになってしまった。学校（教員社会）は、とかく会議が多く、費やす時間をもっと生徒に向けては、と思ったことがある。学校でも、家に帰っても、時間的にも精神的にもゆとりの無い生活であった。

そのような時、関西つつじヶ丘同窓会の桜井佳子会長より達筆のお手紙でお誘いを受けたのですが、出席は叶えませんでした。

関西支部の総会に初めて参加できたのは退職後の２００３年（平成15年）11月、嵯峨野コミニュティでの総会であり、富士昭一会長や受付の森川二三子さんの笑顔に迎えられ、嗚呼同窓会はいいものだなあと喜びにあふれました。京都の料理はうす味で有名ですが、料理を口にした途端、『醤油、醤油』と叫ぶ声を聞いて、ああ「函館の人だなあ」とおかしかったのを覚えています。

最後になりましたが、総会の集合写真は良い記念になります。中谷基さんによるスナップ写真はすばらしいもので、誠にありがたく感謝しております。

函館は第二の故郷

岡本忠篤（西高8回生）

中学生のとき父の転勤に拠り始めて函館に上陸して、昭和30年（１９５５年）に西高校の門をくぐりました。その時ながめた坂道と港のコントラストの美しさはすばらしく、一生忘れられない景色となりました。通学路に点在する教会と臥牛山とがかもしだすエキゾチックな雰囲気は生まれ故郷の神戸と同様で、すんなりと街に溶け込むことができ、また多くの校友達にも恵まれて幸せを感じたものです。

西高校卒業後、京都の大学に入学して関西で就職したわたくしが、「つつじヶ丘同窓会　関西支部」に入会した切っ掛けは、昭和65年（１９９０年）頃に同期の栗山君に誘われたのが縁になりました。入会当時

の会長は5回生の石原さんで、西高時代の思い出を楽しく語り合え、独特の函館弁も懐かしく、たちまち高校生に戻ってしまいます。

神戸に長く住んで最もつらい思い出は、１９９５年３月11日の阪神淡路大震災のため我が家が半壊したことでしたが、あれから24年もたち月日のたつ速さに驚いています。

ところで函館と神戸をつなぐ共通の著名な人物は、なんといっても兵庫県淡路島生まれ、「函館建設の父」と言われ日本史上最大の豪商かつ名外交官の高田屋嘉兵衛でしょう！

函館と神戸に本店をおき北海道・樺太・千島列島にかけての海産物を北前船に満載し、関西や江戸を往来して巨利を上げ絶好期を迎えました。ところが不運にも、嘉兵衛は１８１１年にロシアのゴローニン艦長を捕えた日本側への報復として翌１８１２年にロシア軍艦に捕えられたが、彼は獄舎で必死にロシア語をマスターした。彼は日露双方の関係者を懸命に説得し、ついに１８１３年９月函館港において彼自身とゴローニンとの人質交換という歴史的大業をリコルド艦長との固い信頼と友情により成功させたのである。（司馬遼太郎著「菜の花の沖」全6巻参照）

私は第二の故郷函館の西高校で学んだことを誇りに思い、身体は衰えても心は何時までも高校生の若々しさを保ちたいと思っております。

特別寄稿　新設校発足おめでとう

新設校名雑感

中村　浩（西９回生）

北海道函館西高等学校と北海道函館稜北高等学校が統廃合され、この平成31年４月１日に新設校が開校された。この新設校については、「北海道教育委員会広報」第６２１６号（平成31年11月13日付け）に「北海道立高等学校学則の一部を改正する教育委員会規則（教育委員会規則第９号）」が公布されている。これは10月10日に道議会で原案通り採決されたその原案に相当するものである。課程は、「単位制による全日制の課程」と「全日制の課程」（筆者註：「学年制の全日制課程」）が並列に記載されている。学科は、双方とも「普通科」で、旧設校の生徒諸君は後者に属することになる。

その10月10日には私はカナダに旅行中であった。追って、３名の友人からE-メールが届いた。添付ファイルで、10月11日付けの北海道新聞（道新）と函館新聞（函新）の記事を読むことができた。実は、旅行前にある席である方から「新校名として函館西高が残った」ことをお聞きした。しかし、ニュース・ソースは明らかにされなかった。そこで、私は道議会の日程も迫っているので文教委員会で最終結論が出たのだろうと理解した。結論を知っていたとは云え、海外でこの様に記事を読めることにある種の感動を覚えた。科学技術の進歩によって、一昔前には考えも及ばなかったことが現実に可能になっていることに。

添付ファイルの道新の記事を読んで気になる個所があった。それは、「可決された道立学校条例改正案には、統合高の校名が明記されなかった。これにより、統合先となる函館西高の名称が存続されることとなった。」（原文のまま引用）。函新の記事とは明らかな違いがある。

帰国してから調べて見ると、上記の「北海道教育委員会広報」第６２１６号に辿りついた。そこには公布された「北海道立高等学校学則の一部を改正する教育委員会規則（教育委員会規則第９号）」が掲載されている。この規則第９号は大部分が表から成っていて「北海道函館西高等学校　単位制による全日制の課程　普通教育を主とする学科　普通科　生徒定員２４０」と新しい校名が記載されている。（「北海道教育委員会広報」第６２１６号に於いては12ページの中頃に記載）これと並列に「全日制の課程　普通教育を主とする学科　普通科　生徒定員１年　ー（ナシの意）　２年　１２０　３年　１２０」と記載されている。なお、「公立高等学校配置計画（平成31～33年度）」（平成30年９月　北海道教育委員会発行）の渡島学区高校配置計画の項に平成31年度　函館西　普▲３　函館稜北　普▲３　新設校　普＋６（単位制導入）との記載がある。これら双方の記載を考慮すると、新設校の名称は明らかに北海道函館西高等学校である。従って、道新の10月11日の記事は正確さに欠ける。一方、函新には、「新設校名が10日、「北海道函館西高等学校」に決まった。新設校名を含む道立学校条例の一部改正案が同日、道議会で可決された。」とあり、この函新の記事の方が正確である。

この３月末に旧西高の閉校式を済ませたとのことであるが、残された生徒諸君の卒業時の扱いをどうするかとの問題を挙げただけでも問題は山積している。なお、新制度の高校の同窓会は発足することになっているが、旧同窓会との関係をどうするのかは今後の残された問題である。

以下に述べることは、私の個人的な疑問である。旧西高の閉学が平成31年の３月で稜北高校の閉学が平成33年３月となっていて、閉学時期を同一時期にしなかったのか。なお、教員配置など人事面での扱いを容易にするなどが考えられるが、結果として新設校の名称が旧西高と同一になるのに有利に働いたようにも感じられる。これらの事に関しては、また別の機会があれば述べたいと思う。

平成30年度収支会計報告

自　平成30年4月 1日
至　平成31年3月31日

収入	金額	支出	金額
平成29年度から30年度への繰越金	219,882	幹事宛通信費 郵送料など （計5通）	486
同窓会本部からの補助金	30,000	本部会報の会員宛再郵送料など （計37通）	3,404
幹事会からの寄付（食事代残り）	790	本部宛その他への礼状　切手代 @82x3	246
受取利子	2	レンタルサーバー　ライト　サービス利用料	1,867
		会誌「つつじヶ丘だより」印刷代	4,000
		会誌郵送料　定型@92x16 @82x36	4,424
		平成31年度（令和1年度）への繰越金	236,247
収入　計	250,674	支出　計	250,674

本会記事

《秋の遠足、奈良》

平成30年11月2日、奈良平城宮跡歴史公園と奈良市内を散策した。参加者は6名であった。

ここでの嬉しい知らせ、西高5回生の長澤清司さんが京都に移り住んだとのことで新たに会に参加された。

《新年会開催》

幹事会主催の幹事会を兼ねた新年会を開催した。日時、場所は、平成31年1月18日、大阪梅田がんこ。出席者は9名であった。

主な話題は、統廃合による新設校の名称に関するものであった。その他、「つつじヶ丘だより」（本年度版）の編集方針について意見が交換されたのち、散会。

《幹事会より》

この4月に新設校が発足してその一回生が令和４年3月には卒業する。その新しい同窓会と既存の同窓会との関係をどうするかが問題となる。いずれ一つの同窓会に纏まることが予想されるが、そのためにもある種の努力、例えば関西在住の函館稜北の卒業生に加わって戴き関西での同窓会を発足させるのなどが挙げられる。これらのことに関しては今後議論を重ねたいと考えている。

編集後記

昨年度に引き続いて、特別企画『「つつじヶ丘同窓会」関西支部（関西つつじヶ丘同窓会）あるいはその前進の同窓会に入会した頃』を掲載しました。会員の皆様には、順次執筆を依頼しますので、よろしくお願いいたします。

令和元年度総会のお知らせ

本年度は2年毎の総会・懇親会開催の年度にあたります。会員の皆様、ふるってご参加ください。

日時：令和元年11月24日(日曜日)
時間：12時30分より
会場：新大阪ワシントンホテル　プラザ
（06-6303-8111）

参加ご希望の方は、同封のハガキで11月8日(金)迄に中村までご連絡ください。なお、ご欠席の場合も同封のハガキでご返信くださるようお願い申し上げます。
（何か連絡事項ができましたら、左記にご連絡ください。
TEL06・6852・8274　または携帯090・6235・8274　またはEメール hiro@osaka.zaq.jp